

うつのみやの家計

平成19年度版

目 次

1. 平成19年度の市の予算	1
2. 一般会計の歳入予算	2
3. 一般会計の歳出予算	5
4. まとめ	11

(注) グラフの数値等については、平成15年度から平成17年度までは、宇都宮市単独の数値を、平成18年度は、旧1市2町(宇都宮市、上河内町、河内町)を合算した数値を用いています。

1. 平成19年度の市の予算

市の会計は、皆さんからの税金を主な収入として市の大部分の仕事をまかなっている「一般会計」と、特定の収入で特定の事業を行っている「特別会計」とがあり、これら全部の合計3,334億6,085万円ですさまざまな事業を行っています。

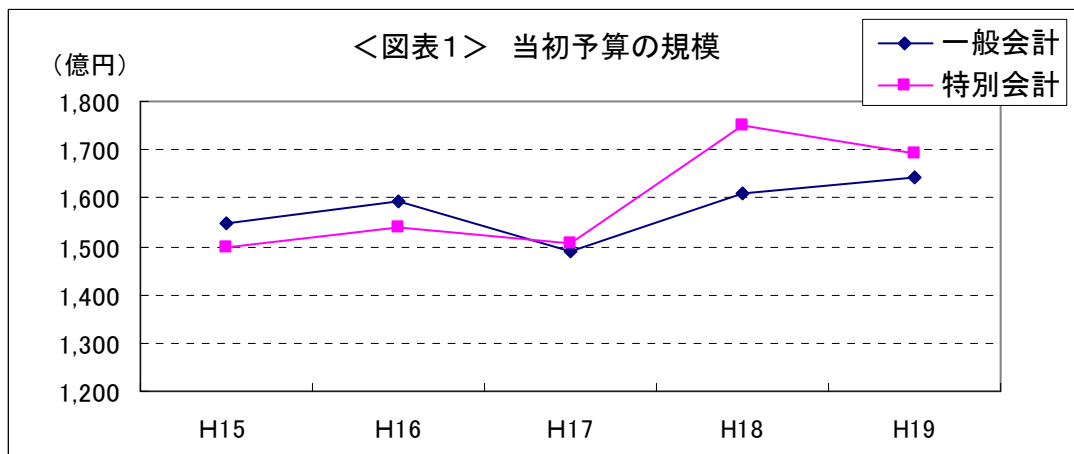
一般会計 1,643億2,000万円

特別会計 1,691億4,085万円

国民健康保険事業、介護保険事業、区画整理事業、水道事業、下水道事業など

家計に例えると・・・

一般会計が、宇都宮太郎さん一家の家計（一人暮らしをしている子どもたちの家計を除く）であり、特別会計が、大学に通うため一人暮らしをしている子どもたちの家計となります。



＜図表1＞の説明

一般会計については、中小企業への貸付金の融資枠を実績に応じて縮小する一方、児童手当や障害者自立支援費などの扶助費の増加や、都心部活性化推進事業への積極的な取り組みなどにより、前年度予算比2.0%の増となりました。

特別会計については、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計において、医療給付費などの増に伴い、増額となるほか、新たに、宇大東南部第2土地区画整理事業及び中里原土地区画整理事業の特別会計を設置しますが、競輪特別会計において、特別競輪の開催経費の減に伴い、大幅な減額になることから、特別会計全体では3.3%の減となりました。

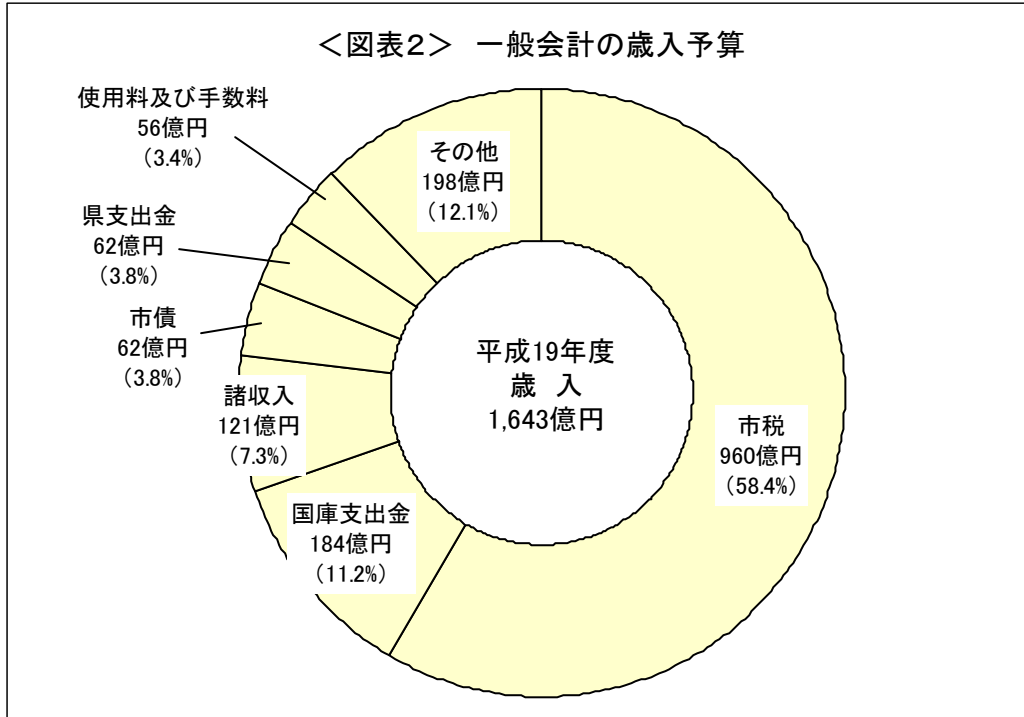
予算・・・一定の期間を区切り、その間の収入・支出を見積もったものをいいます。

会計年度・・・毎年4月1日から翌年3月31日を一会計年度といえます。

2. 一般会計の歳入予算

会計年度内にどれだけのお金が入るかを歳入といいます。
では、宇都宮市の歳入はどうなっているのでしょうか？

《歳入予算》



家計に例えると・・・

市税は、市民税や固定資産税、軽自動車税など、皆さんが納める税金のことで、家計に例えると、主な収入である給料や、自営業者の所得にあたります。

国庫支出金、県支出金は、国県からの補助金で、おじいちゃんが、お父さんに、特定の理由でお金を援助する資金にあたります。

諸収入は、市が貸付けたお金の返済金などで、預金の受取利息にあたります。

市債は、多額の資金を必要とする事業に対し国や銀行から借り入れるお金で、住宅ローン、自動車ローンにあたります。

使用料及び手数料は、市民の皆さんが施設などを利用した時の利用料金等のことで、アパート経営をしている人の家賃収入にあたります。

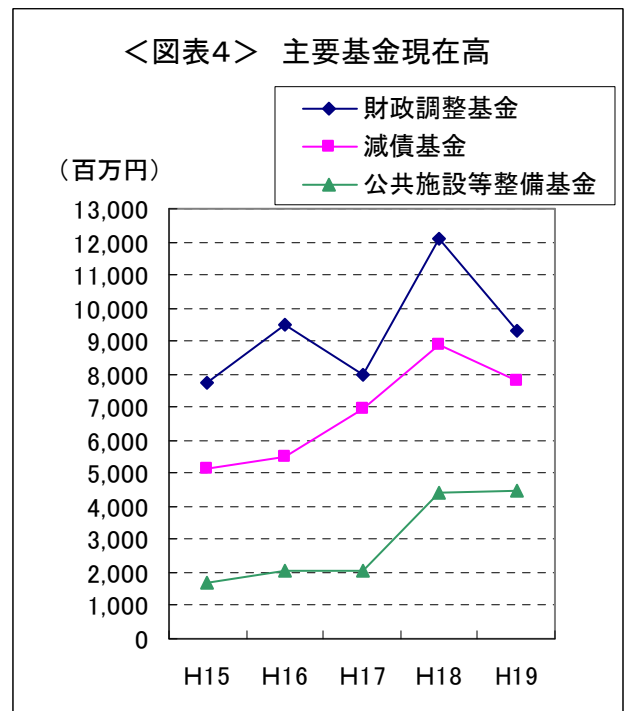
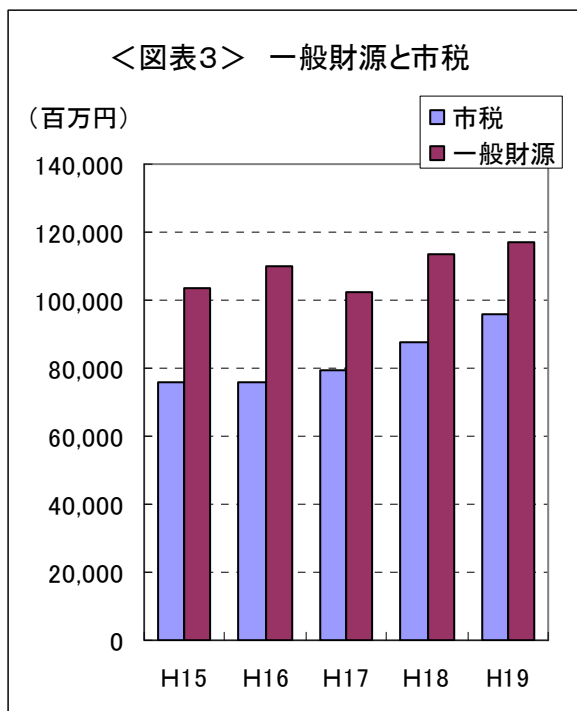
《一般財源と特定財源》

一般財源とは、市税や、財政調整基金（貯金）からの繰入金など、どのような経費にも使用することのできるお金のことを言います。それに対して、特定財源とは、国県支出金や、使用料及び手数料など、使いみちが特定されているお金のことをいいます。

家計に例えると・・・

給料など（一般財源）は毎月の生活費のほか、余裕があるときは、貯金や洋服購入などの臨時的な経費にあてるなど、何にでも使うことができますが、例えば、家の増築の際に、おじいちゃんの援助（特定財源）を受けた場合は、増築以外には使えません。

また、増築には特定財源だけでは足りませんので、貯金（一般財源）を下ろして補うこととなります。



※各年度末現在の実績。H18・19は見込み。

＜図表3，図表4＞の説明

一般財源は、所得税から住民税への税源移譲に伴う個人市民税や、一部企業の業績向上などに伴う法人市民税が増収となりました。

また、歳出で不足する財源を確保するため、貯金を下ろす（基金からの繰入金）などして対応していますが、19年度は、財政調整基金を29億取り崩すとともに、借入金の返済のために積み立てた減債基金を11億円活用するため、貯金（基金）の残高が減少しました。

財政調整基金とは・・・年度間の財源の不均衡を調整するため、余財があるときに積み立て、収入が著しく減ったときや、一時的な支出が必要なときなどに取り崩すお金

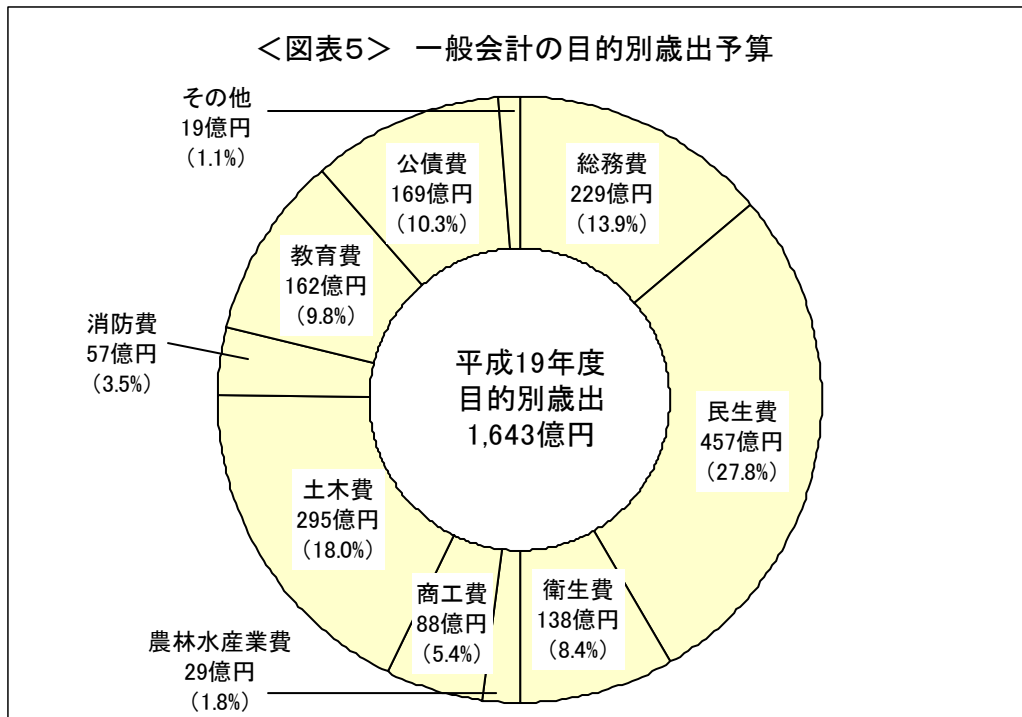
減債基金とは・・・市債の償還を計画的に行うために積み立てるお金

公共施設等整備基金とは・・・大規模な施設の整備費をまかなうために積み立てるお金

3. 一般会計の歳出予算

会計年度内に入ったお金で、どのような仕事をどれくらい行うかを歳出といいます。宇都宮市の予算はどんなことに使われているのでしょうか？

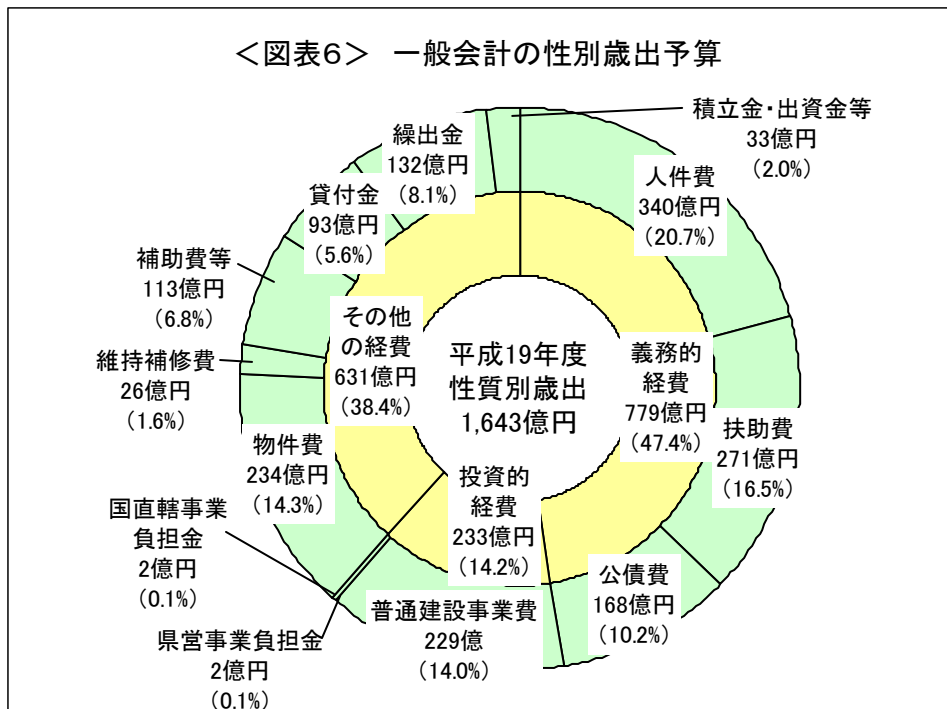
《目的別歳出予算》



- ・ 総務費・・・税金を集める仕事、戸籍事務など、市役所の全般的な仕事の経費です。
- ・ 民生費・・・児童やお年寄り、障害者の方のための福祉や生活保護のための経費です。
- ・ 衛生費・・・皆さんの健康を守ったり、ごみやし尿を処理するための経費です。
- ・ 農林水産業費・・・農業や畜産業、林業などを盛んにするための経費です。
- ・ 商工費・・・商業や工業、観光を盛んにするための経費です。
- ・ 土木費・・・道路や公園、市営住宅の整備などを行うための経費です。
- ・ 消防費・・・皆さんの生命、身体及び財産を災害から守るために必要な経費です。
- ・ 教育費・・・小・中学校の運営や、市民文化・スポーツを振興するための経費です。
- ・ 公債費・・・市債（市が借りているお金）を返済するための経費です。
- ・ その他・・・議会費などの歳出です。

《性質別歳出予算》

歳出は、どのような性質を持っているかによっても分類することができます。

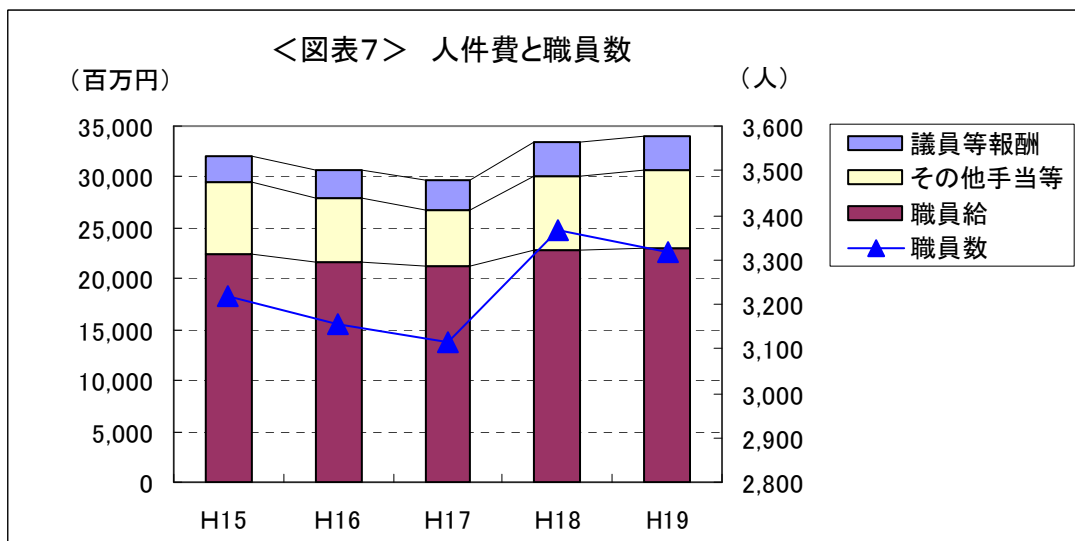


◆人件費

人件費とは職員の給料や、議員の報酬などのお金のことをいいます。

家計に例えると・・・

人件費を家庭生活にあてはめるのは、難しいところですが、あえて例えるなら、その構成割合や重要性から、食費にあたると考えられます。義務的経費が増加している現在では、食費（人件費）を切りつめることもしています。



※職員数については、予算計上時の一般会計における一般職員数

<図表7>の説明

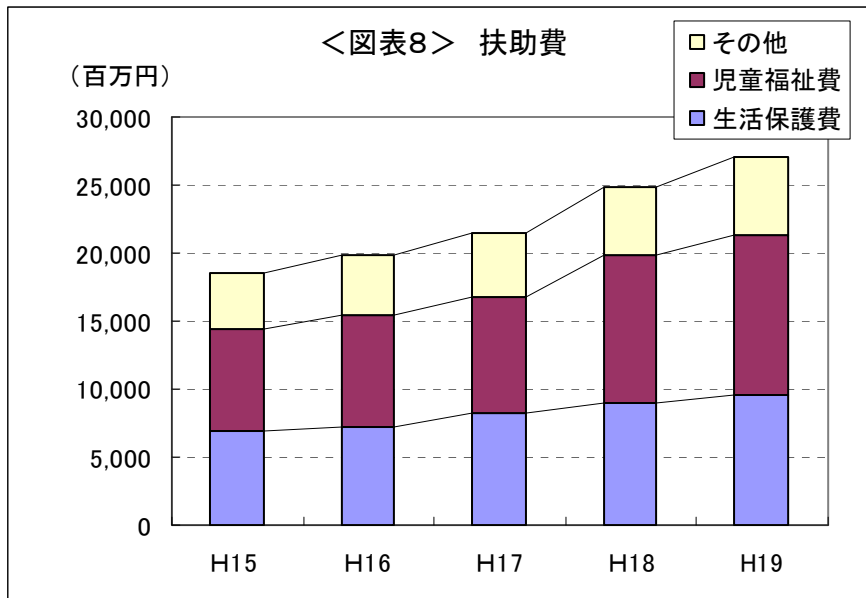
宇都宮市では、定員適正化計画に基づいて、職員数を減らしてきましたが、合併による職員数の増加や、団塊の世代の退職手当等の支出が増加するため、人件費が増加しました。

◆扶助費

扶助費とは、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法などに基づき、社会保障制度の一環として、該当する人に支給するお金のことをいいます。

家計に例えると・・・

扶助費は、家族の医療費や、おばあちゃんがはり・きゅうに通う費用などにあたります。他の経費に比べておじいちゃんの援助（国県支出金）はたくさんもらえますが、全体額が伸びるにしたがって、給料（一般財源）から払う分も多くなります。



<図表8>の説明

扶助費は、児童手当の支給額の拡大や、上河内町及び河内町の生活保護や児童扶養手当の事務を県から引き継ぐことなどにより、増加しています。

- 生活保護費とは・・・病気などによって、収入や蓄えがなくなり、生活が困難になった人に対して支給するお金
- 児童扶養手当とは・・・母子家庭等の自立や生活の安定をはかるために支給するお金
- 児童手当とは・・・小6までの児童を養育している人に、児童を健全に育成するために支給するお金

◆公債費

公債費とは、市の借入金（市債）を返済するお金のことをいいます。

市債は、子どもたちの代まで長く利用できる学校や道路などにかかるお金は、できるだけ長期に分けて負担していただくという考えで、借入れをしているお金です。

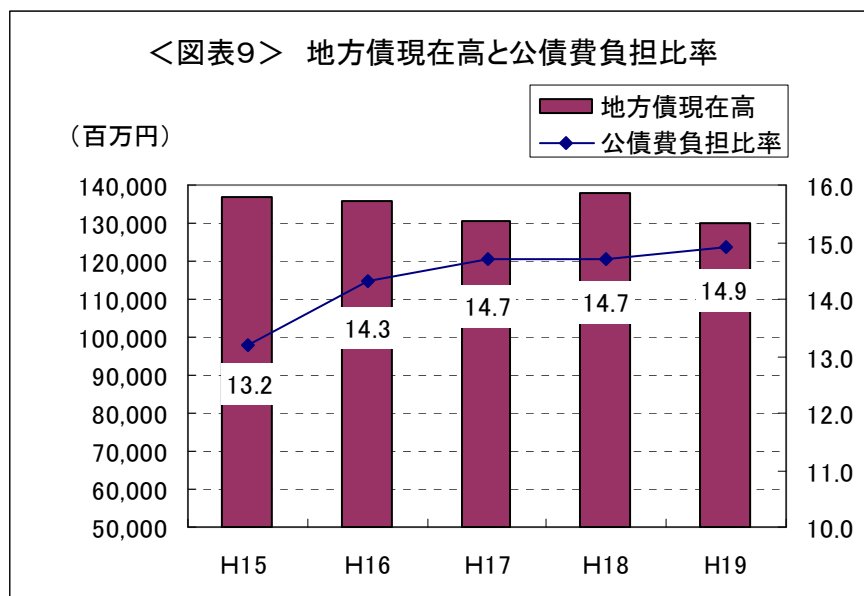
また、地方債現在高とは、借入している市債の総額をいい、公債費負担比率とは、一般財源に占める公債費の割合のことをいいます。

家計に例えると・・・

家を建てたり、車を買ったりといった大きな出費をする時に借金をすることがありますが、公債費は借金の返済額、地方債現在高は現在の借金の総額にあたります。

公債費負担比率は、ローン返済の家計に対する負担の重さを表します。

家を建てる時に、あまりお金を借り過ぎると、子どもの代まで借金が残ることがあります。子どもが財産を受け継ぐとすれば、子どもがある程度の借金を払うのも公平といえますが、一定以上の支払は子どもの家計を苦しくさせてしまうこともあるので、借金をする時には、その点を十分考慮することが必要となります。



※各年度末の実績。H18・19は見込み。

＜図表9＞の説明

平成18年度末の地方債残高見込みは、上河内町及び河内町の発行残高を引き継ぐため増加しています。

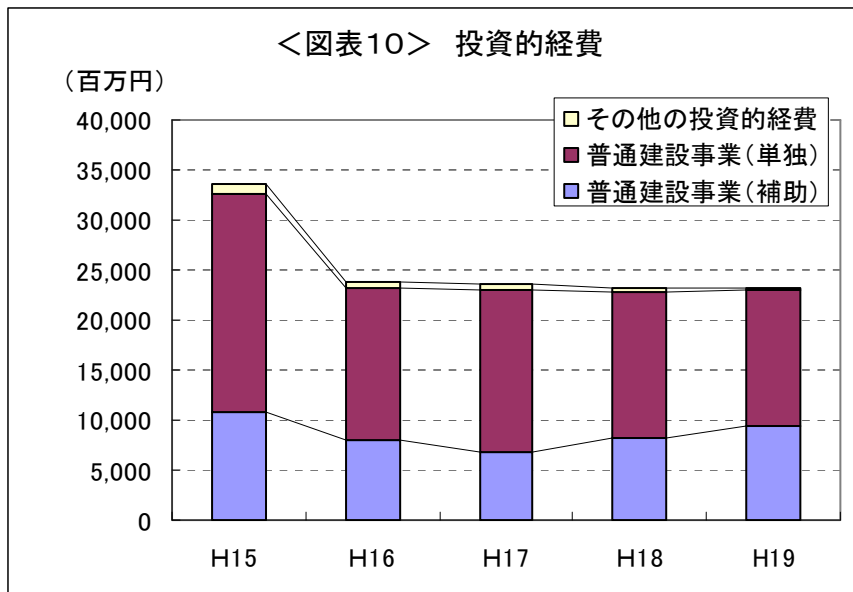
平成19年度は、地方債の借入額を、元利償還金（借入金の返済額）以内に抑制したことにより、地方債残高は減少していますが、前年度より返済額が増加したため、公債費負担比率は増となっています。

◆投資的経費

消費的経費に対して、施設や道路の整備など、将来も形となって残るものに支出される経費を、投資的経費といいます。

家計に例えると・・・

家の新築や増築、車の購入など、将来も形に残る費用にあたります。



＜図表10＞の説明

投資的経費は、新斎場建設用地の取得が概ね完了したことなどにより単独事業は減額となりましたが、宇都宮市民プラザ整備事業や雀宮駅周辺地域整備事業などの補助事業を積極的に計上したことに伴い、微増となりました。

◆その他の代表的な経費

家計に例えると・・・

物件費 — 物を買うお金や、施設の維持管理経費などのことをいいます。家計に例えれば、家やアパートの電気代や水道代などにあたります。

補助費等 — 公益上必要があると認められた特定の事業を助成するため、支出するお金のことをいいます。家計に例えれば、結婚のお祝い金などにあたります。

繰出金 — 異なる会計に充当するため支出するお金のことをいいます。家計に例えれば、大学に通うため一人暮らしをしている子どもたちへの仕送りにあたります。

維持補修費 — 公共施設などの補修をするお金のことをいいます。家計に例えれば家の修理代にあたります。

◆経常収支比率

毎年固定的にかかり節減困難な経費（扶助費などの経常的経費）に、毎年収入される一般財源がどのくらい充てられているのかを表すものとして、「経常収支比率」があります。

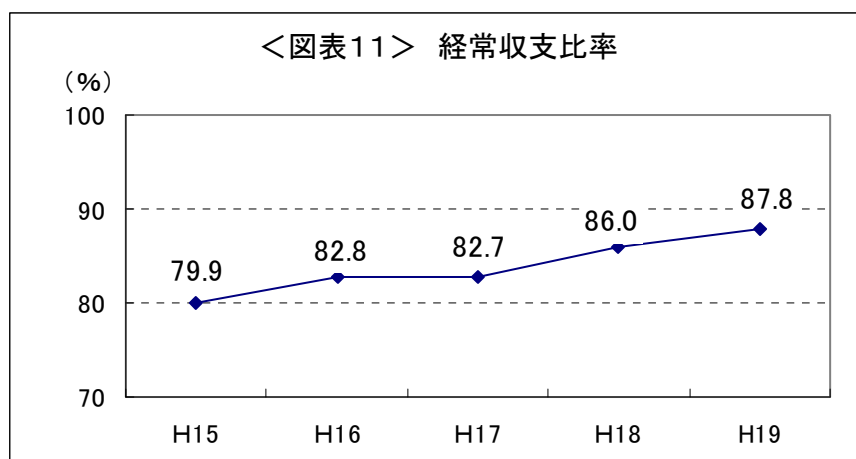
「経常収支比率」は、低いほど自由に使えるお金が多く、高いほど自由に使えるお金が少ないことを表しています。

家計に例えると・・・

給料は少し増えましたが、家族の医療費や、ローン返済金が負担となり（義務的経費の増加）、給料のほとんどをそれに使わざるをえません。

残りの給料はほんの少しなので、使いみちをよく考えて、家の増築をすることにして、お父さんが欲しがっていた車は、大切に乘ることにしました（投資的経費の微増）。

本当は、おばあちゃんの誕生日には素敵なプレゼントを送ってあげたいのですが、そのためには一生懸命家計のやりくりをしなくてはなりません。（柔軟性の低下）



※ 普通会計各年度末現在の実績。H18・19は見込み。

※ H18は、宇都宮市単独の数値

＜表11＞の説明

経常収支比率は、生活保護費の増などにより扶助費の負担が多くなっていることなどから、80%台で推移しています。

類似団体10市の経常収支比率の平均（平成17年度の実績平均）が %であることから、類似団体の中では、比較的自由に使えるお金が多いといえますが、今後、更なる扶助費の増加が見込まれることから、一層のコスト削減や財源確保に努めなければなりません。

普通会計とは・・・他都市との比較などで使われる統計上の区分です。

類似団体10市とは・・・宇都宮市、船橋市、相模原市、金沢市、静岡市、堺市、岡山市、長崎市、大分市、鹿児島市の10市で、産業構造の類似している地方公共団体です。

